

科目の年間授業計画(シラバス)

教科・科目等	芸術：書道 I	単位数 2 単位	履修年次 1 年次
目標	感性を高め、書の伝統と文化と豊かに関わる資質・能力を身につけるために、書の表現の方法や形式などについて幅広く理解し、効果的に表現するための基礎的な能力を習得する。また、意図に基づいて構想し表現を工夫することで、書的美を味わい捉え、生涯にわたり書を愛好する心情を身につける。		
使用教材	・教科書「教育出版 書道 I」 ・実技道具(大筆・小筆・仮名筆・各種紙・墨・硯など)		
評価の観点・評価規準	(知識・技能)	(思考・判断・表現)	(主体的に学習に取り組む態度)
	書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な能力を身につけている。	書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書的美を味わい捉えたりしている。	主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化と豊かに関わり表現及び鑑賞の創造的活動に取り組もうとしている。
評価方法	評価の観点・評価規準を踏まえ、古典の理解、技能、構成や表現の工夫、作品の鑑賞、相互評価などの他、日々の授業態度、準備物・提出物の状況などを含め、総合的に評価する。		
学期	学習内容	学習のねらい	
1	1: 書写から書道へ 2: 知識や技能を得たり生かしたりしながら、漢字の書(楷書)について学習する。 (1)臨書 (2)鑑賞 (3)創作 3: 知識や技能を得たり生かしたりしながら、漢字の書(行書)について学習する。 (1)臨書① (2)鑑賞①	1: 中学校国語科書写からの円滑な接続を図るとともに、見通しをもって学習に取り組めるよう、芸術科書道の学習内容を理解する。 2: 文字の歴史的変遷や書の伝統と文化について理解するとともに、臨書と鑑賞を通して字形や用筆、紙面構成の基礎・基本を学び、身につけた知識・技能を生かして創作できる。また、創作作品を相互鑑賞し、各作品の価値や表現の多様性など感じ取ったことを言葉で表現する力を身につける。 3: 「行書」の分野について、2同様の内容を身につける。	
2	3: 1学期に続き、知識や技能を得たり生かしたりしながら、漢字の書(行書)について学習する。 (1)臨書② (2)鑑賞② (3)創作 4: 知識や技能を得たり生かしたりしながら、仮名の書について学習する。 ○ 篆刻・刻字の学習 5: 知識や技能を得たり生かしたりしながら、仮名の書について学習する。 (1)臨書 (2)鑑賞 (3)創作	3: 「行書」の分野について、2と同様の内容を身につける。 4: 篆刻・刻字の歴史・文化について学び理解できる。書道における立体表現に触れ、必要な技能を身につける。 5: 仮名の成立、書の伝統と文化について理解するとともに、臨書と鑑賞を通して字形や用筆、紙面構成の基礎・基本を学び、身につけた知識・技能を生かして創作できる。また、創作作品を相互鑑賞し、各作品の価値や表現の多様性など感じ取ったことを言葉で表現する力を身につける。	
3	5: 知識や技能を得たり生かしたりしながら、漢字仮名交じりの書について学習する。 (1)創作 (2)鑑賞 6: 鑑賞に関わる知識を得たり生かしたりしながら、作品を鑑賞する。 (1)文士の書 (2)生活や社会の中の書	5: 2、3、4で習得した知識・技能を生かし、書きたい言葉のイメージに合わせて紙面構成や用具・用材を考え、主体的に構想し、自己表現する。また、作品を相互鑑賞し、各作品の価値や表現の多様性など感じ取ったことを言葉で表現する力を身につける。 6: 独自の個性や美意識から生み出された文士の筆跡を鑑賞することで、書の文化や芸術の視野を広げる。また、生活や社会の中の書について知り、それらの効用について考え、表現する。	
学習上の留意点	・使用教材の準備、管理、片付けをきちんと行う。 ・お互いを尊重し、各自の個性を認め合いながら、感性を高めていく。 ・本講座授業時間中に限り、ジャージ等の汚れても良い服を着用できる。		

科目の年間授業計画(シラバス)

教科・科目等	芸術:書道Ⅱ	単位数 2 単位	履修年次 2 年次
目標	書道の創造的な諸活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と深く関わる資質・能力を身につける。また、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を身につける。		
使用教材	・教科書「教育出版 書道Ⅱ」 ・実技道具(大筆・小筆・仮名筆・各種紙・墨・硯など)		
評価の観点・評価規準	(知識・技能)	(思考・判断・表現)	(主体的に学習に取り組む態度)
	臨書や鑑賞を通して、書表現の多様性について理解を深め、表現するために必要な技能を身につけ、表している。	意図に基づいて表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考えたりして、書の良さや美しさを感じている。	書の創造的活動の喜びを味わい、書の伝統と文化に関心をもって、主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組もうとしている。
評価方法	評価の観点・評価規準を踏まえ、古典の理解、技能、構成や表現の工夫、作品の鑑賞、相互評価などの他、日々の授業態度、準備物・提出物の状況などを含め、総合的に評価する。		
学期	学習内容	学習のねらい	
1	1:漢字の書(篆書・隸書・草書)の学習 (1)臨書 (2)鑑賞	1:(1)「漢字の書」の特質と歴史、および学習する各書体、古典の歴史と特徴について理解できる。その後、実技学習を通してそれらを踏まえた表現技能を身につける。 1:(2)(1)で学んだ古典の書風について鑑賞を行い、作者の意図と表現の工夫について自分の言葉で表現する。	
2	1:漢字の書(行書・楷書)の学習 (1)臨書 (2)鑑賞 2:篆刻の学習	1:学習する古典の歴史と特徴について理解できる。その後、実技学習を通してそれらを踏まえた表現技能を身につける。 2:篆刻の歴史・文化について学び理解できる。その上で、実技を行うことで書道における立体表現に触れつつ、印作りに必要な技能を習得する。	
3	3:漢字仮名交じりの書の学習 (1)創作 (2)鑑賞 4:鑑賞 (1)生活や社会の中の書	3:(1)名筆や、現代の書の表現について学ぶ。その後、目的、用途、意図に応じた全体構成を創造的に考える。また、これまでに学習してきた古典古筆の書風を基に、漢字と仮名の調和を意識しつつ、自らの感興や意図に基づく創作表現の実現に向けて、個性豊かな表現の創作ができる。 3:(2)(1)での創作作品について鑑賞会を行い、各作品の価値をさまざまな観点から根拠をもって表現できる。 4:(1)生活や社会の中の書について知り、それらの効用と現代的意義について考え、表現できる。	
学習上の留意点	・書道Ⅰを履修している者のみが受講できる。 ・使用教材の準備、管理、片付けをしっかりと行う。 ・本講座授業時間中に限り、ジャージ等の汚れても良い服の着用ができる。		

科目の年間授業計画(シラバス)

教科・科目	芸術:書道Ⅲ(選択)		単位数 2 単位	履修年次 3 年次
目標	<p>書道の創造的な諸活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の多様な文字や書、書の伝統と文化と深く関わる資質・能力を次のとおり育成する。</p> <p>(1)書の表現の方法や形式、多様性などについて理解を深めるとともに、書の伝統に基づき、創造的に表現するための技能を身につける。</p> <p>(2)書の良さや美しさを感じ、意図に基づいて創造的に深く構想し、個性豊かに表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい深く捉えたりすることができる。</p> <p>(3)主体的に書の想像的な諸活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を磨き、書の伝統と文化を尊重し、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。</p>			
使用教材	<p>・教科書「教育図書 書Ⅲ」</p> <p>・実技道具(大筆・小筆・仮名筆・各種紙・墨・硯など)</p>			
評価の観点・評価規準	書への関心・意欲・態度	(書表現の構想と工夫)	創造的な書表現の技能	(鑑賞の能力)
	書の創造的活動の喜びを味わい、書の伝統と文化に関心をもって、主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組みもうとしている。	書のよさや美しさを感じとり、感性を働かせながら、自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫している。	創造的な書表現をするために、基礎的な能力を生かし、効果的な表現の技能を身につけている。	日常生活の書の効用や書の伝統と文化について幅広く理解し、その価値を考え、書のよさや美しさを創造的に味わっている。
評価方法	評価の観点・評価規準を踏まえ、古典の理解、技能、構成や表現の工夫、作品の鑑賞、相互評価などの他、日々の授業態度、準備物・提出物の状況などを含め、総合的に評価する。			
学期	学習内容		学習のねらい	
1	1:書道Ⅰ、Ⅱの復習 2:作品制作(臨書)		1:書道Ⅰ、Ⅱで扱ってきた各分野(漢字仮名交じりの書、漢字の書、仮名の書)の総復習をすることで、それぞれの概要を理解し、その上で「学習内容2」以降で学習する分野を主体的に決定できる。 2:1で学んだ内容を基に、今後1年間で学習する古典、古筆、名筆を選択できる。次に、選択した古典について歴史・特色等のさまざまな観点から知識・理解を深める。その後、各観点の特色を生かして全紙程度のサイズの紙に創造的に表現する技能を身につける。	
2	3:鑑賞 4:作品制作(創作)		3:2で制作した臨書作品について、他者と対話しつつ鑑賞を線質、字形、構成等の要素及び、書の多様性について理解を深める。 4:全紙サイズ程度の創作作品を通して、個性的、創造的な表現を追究する。制作の際は、2で制作した作品の特色と3で発見した学びを踏まえた上で、主体的に自らの意図に基づいて創造的に深く構想し、個性豊かな表現を工夫する。	
3	5:鑑賞		5:4での創作作品について鑑賞会を行う。その後、これまでに学んだ鑑賞に関わる知識を再確認したり生かしたりしながら、書の普遍的価値や書論を踏まえた書の芸術性について考え、書の良さや美しさを味わって深く捉える。	
学習上の留意点	<p>・書道Ⅰ、Ⅱを履修している者のみ受講できる。</p> <p>・使用教材の準備、管理、片付けをしっかりと行う。</p> <p>・本講座授業時間中に限り、ジャージ等の汚れても良い服の着用ができる。</p>			

科目の年間授業計画(シラバス)

教科・科目	芸術:実技Ⅱ【書道】(選択)		単位数 2 単位	履修年次 3 年次
目標	<p>作品制作を通して、制作に関する見方・考え方を働かせつつ活動することで、よりよい制作に必要な能力を次のとおり育成する。</p> <p>(1)作品改良に必要な知識について理解をすると共に、書の伝統に基づき、作品改良に必要な技能を身につける。</p> <p>(2)作品の課題点を考え、表現を工夫したり、各書作品の良さや美しさを深く味わったりすることができる。</p> <p>(3)生涯に渡り書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。</p>			
使用教材	・実技道具(大筆・小筆・仮名筆・各種紙・墨・硯など)			
評価の観点・評価規準	(書への関心・意欲・態度)	(書表現の構想と工夫)	(創造的な書表現の技能)	(鑑賞の能力)
	書の創造的活動の喜びを味わい、書の伝統と文化に関心をもって、主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組もうとしている。	書のよさや美しさを感じとり、感性を働かせながら、自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫している。	創造的な書表現をするために、基礎的な能力を生かし、効果的な表現の技能を身につけている。	日常生活の書の効用や書の伝統と文化について幅広く理解し、その価値を考え、書のよさや美しさを創造的に味わっている。
評価方法	評価の観点・評価規準を踏まえ、古典の理解、技能、構成や表現の工夫、作品の鑑賞、相互評価などの他、日々の授業態度、準備物・提出物の状況などを含め、総合的に評価する。			
学期	学習内容		学習のねらい	
1	1:実技Ⅰで学習したことの復習 2:卒業発表会に作品制作(少字数)1		1:卒業発表会用の作品制作の構想、計画にむけて実技Ⅰで学習した内容を再度理解できる。 2:1で学んだ内容を基に、今後1年間で学習する古典、古筆、名筆を選択できる。次に、選択した古典について歴史・特色等のさまざまな観点から知識・理解を深める。その後、各観点の特色を生かして少字数作品を創造的に表現する技能を身につける。同時に、作品の課題点を考え、表現を工夫したり、各書作品の良さや美しさを深く味わったりすることができる。	
	2	3:卒業発表会に作品制作(少字数)2 4:表具作業1		3:2での活動から引き続き、各観点の特色を生かして少字数作品を創造的に表現する技能を身につける。同時に、作品の課題点を考え、表現を工夫したり、各書作品の良さや美しさを深く味わったりすることができる。 4:卒業発表会に向けて展示の準備を行うことで、生涯に渡り書を愛好する心情を一層醸成できる。
3		5:表具作業2		5:4に引き続き、卒業発表会に向けて展示の準備を行うことで、生涯に渡り書を愛好する心情を一層醸成できる。
学習上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・実技Ⅰを履修している者のみ受講できる。 ・使用教材の準備、管理、片付けをしっかりと行う。 ・本講座授業時間中に限り、ジャージ等の汚れても良い服の着用ができる。 			

科目の年間授業計画(シラバス)

教科・科目	芸術:芸術発展【書道】(選択)		単位数 2 単位	履修年次 3 年次
目標	<p>刻字作品制作を通して、制作に関する見方・考え方を働かせつつ活動することで、よりよい刻字作品制作に必要な能力を次のとおり育成する。</p> <p>(1)作品改良に必要な知識について理解をすると共に、書の伝統に基づき、作品改良に必要な技能を身につける。</p> <p>(2)作品の課題点を考え、表現を工夫したり、各書作品の良さや美しさを深く味わったりすることができる。</p> <p>(3)主体的に制作活動に取り組み、生涯に渡り書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。</p>			
使用教材	・実技道具(大筆・小筆・仮名筆・各種紙・墨・硯など)			
評価の観点・評価規準	(書への関心・意欲・態度)	(書表現の構想と工夫)	(創造的な書表現の技能)	(鑑賞の能力)
	書の創造的活動の喜びを味わい、書の伝統と文化に関心をもって、主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組もうとしている。	書のよさや美しさを感じとり、感性を働かせながら、自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫している。	創造的な書表現をするために、基礎的な能力を生かし、効果的な表現の技能を身につけて表している。	日常生活の書の効用や書の伝統と文化について幅広く理解し、その価値を考え、書のよさや美しさを創造的に味わっている。
評価方法	評価の観点・評価規準を踏まえ、古典の理解、技能、構成や表現の工夫、作品の鑑賞、相互評価などの他、日々の授業態度、準備物・提出物の状況などを含め、総合的に評価する。			
学期	学習内容		学習のねらい	
1	1: 大作品制作(文化祭出品用刻字作品の原稿)		1: 文化祭出品用作品、卒業発表会用作品の制作の構想、計画にむけて書道Ⅰ、Ⅱで学習した内容を再度理解できる。	
	2: 刻字(卒業発表会出品用)		2: 1で学んだ内容を基に、今後1年間で刻字制作で参考にする古典、古筆、名筆を選択できる。次に、選択した古典について歴史・特色等のさまざまな観点から知識・理解を深める。その後、各観点の特色を生かして刻字作品を創造的に表現する技能を身につける。同時に、作品の課題点を考え、表現を工夫できる。各書作品の良さや美しさを深く味わったりすることができる。	
2	3: 鑑賞		3: 1での作品について鑑賞会を行い、各書作品の良さや美しさを深く味わったりすることができる。	
	4: 刻字(卒業発表会出品用)		4: 1学期から引き続き、各観点の特色を生かして刻字作品を創造的に表現する技能を身につける。同時に、作品の課題点を考え、表現を工夫できる。	
3	5: 刻字(卒業発表会出品用)		5: 2学期から引き続き、各観点の特色を生かして刻字作品を創造的に表現する技能を身につける。同時に、作品の課題点を考え、表現を工夫できる。	
	6: 卒業発表会		6: 5で完成した作品の発表に関する一連の活動を通し、生涯に渡り書を愛好する心情を涵養できる。また、各書作品の良さや美しさを深く味わったりすることができる。	
学習上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・書道Ⅰ、Ⅱを履修している者のみが受講できる。 ・使用教材の準備、管理、片付けをしっかりと行う。 ・本講座授業時間中に限り、ジャージ等の汚れても良い服の着用ができる。 			